ISSN 2186-5647

5-23

太田市美術館・図書館の施設整備計画の特徴

日大生産工(院)　○守屋　陽平
日大生産工　　山岸　輝樹

1. はじめに

図書館を「地域の居場所」として計画することが,近年多くの自治体で進められている。その際内部空間のデザインは,もっぱら本棚と閲覧用の机・椅子により整備されたこれまでの図書館とは異なり、より多様な居場所がデザインされる傾向にあり、現代社会が求める多様性を包摂する寛容な公共空間が求められていると考えられる。

太田市美術館・図書館の図書館は、一般的な地域図書館とは異なり、開かれた地域の居場所として設計され、利用されている。筆者らは一般の図書館とは異なる多様な姿勢での利用が見られることを明らかにしている。[1)]

このような施設整備に至った理由の一つとして、市が一般の図書館とは違う形で、事業の内容を決定してきたプロセスがあると考える。そこで本研究では、そのような施設整備に至った経緯を整理し内容を明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

太田市の総合計画[2)3)]から太田市美術館・図書館の整備に係るような行政の方針・計画などの各事業計画の内容を確認し、設計プロポーザル内容とプロセス、ワークショップの内容[4)]などに施設計画の内容を確認し動きを把握する。2023年10月行政担当者に行ったヒアリングによって文化交流施設に図書館機能を持たせた要因、過程について調査する。

3. 太田市美術館・図書館が整備されるまでの過程

図1は太田市周辺整備計画、太田市美術館・図書館計画の内容を時系列的に整理したものである。

太田市での計画プロセスを整理すると①駅前再開発策定期間②文化交流施設に図書館を整備されるまでの期間③プロポーザル後の計画期間の３つに分けることができる。

3-1. 駅前再開発策定期間

駅前の再開発整備として平成8年に太田駅付近連続交差事業、太田駅周辺土地区画整備事業(図1.A)が発足され、平成18年には東武鉄道の高架化、太田駅舎の改修、南北自由通路が開通(図1.B)され、平成21年には太田駅北口駅前整備事業によって太田駅北口駅前広場の移転整備(図1.C)が行われている。

平成23年に太田駅近隣の市民会館が老朽化によって解体されたことにより、改めて市民が集まる文化交流施設建設が平成23年3月都市再生整備計画(図1.D)で提案される。しかし、行政担当者とのヒアリングによって当初の計画ではカフェ、ギャラリーなどが入った文化交流施設を整備するという内容である。

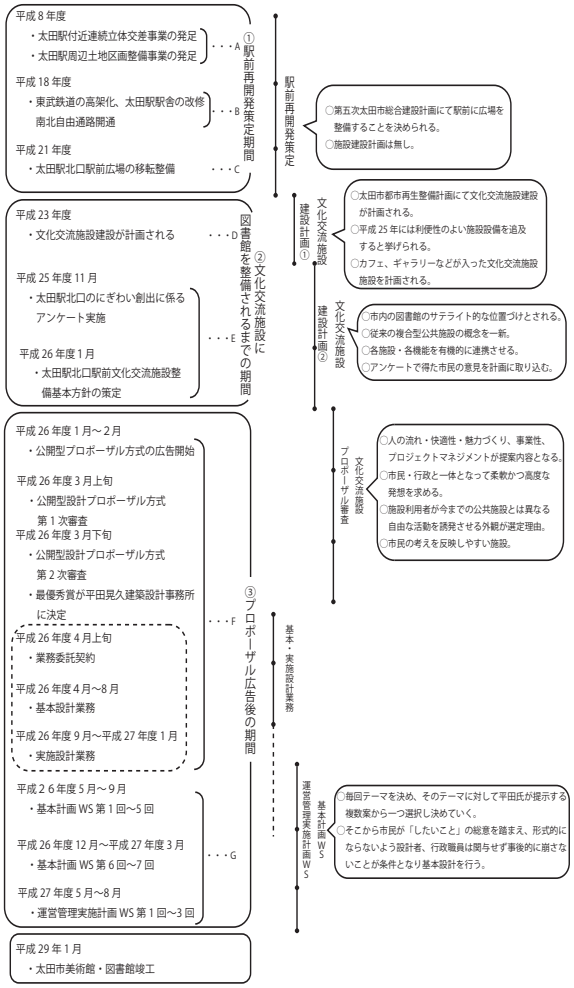

図1　太田市周辺整備、太田市美術館・図書館計画年表

Features of the Ota Art Museum and Library's Facility Development Plan

Yohei MORIYA, Teruki YAMAGISHI

3-2. 文化交流施設に美術館・図書館を整備するまでの期間

市民が集まりやすい駅前に人を呼び込む核となる文化交流施設として、市は図書館を念頭されていることが太田駅北口の賑わいに係るアンケート(図1.E)で見受けられ、実施場所が市内４館の図書館で行われ、図書館としての機能について意見を求めている。結果として、市民は従来の図書館より気軽に利用・滞在する居場所が求められている。

平成26年に地方都市リノベーション推進施設事業によって、太田駅北口駅前文化交流施設整備基本方針の策定(図1.E)が発表され、既存する図書館と比べ、より敷居の低いサテライト的な位置付けとし、情報や知識の収集として使う既存の図書館の概念にとらわれることなく、「時間と場所の提供」、「本ではなく人が動く仕組み」に重点を置いた。日常的に図書館を利用していない層を取り込み、戦略的に既存図書館の活性化へ繋げていく計画がされている。[5)]

3-3. プロポーザル後の計画期間

設計プロポーザルの広告[6)]では人の流れ、快適性・魅力づくり、事業性、プロジェクトマネジメントが提案内容(図1.F)とされており、市民と行政が一体となった柔軟な設計が求められている。

設計プロポーザル総括[7)]では、平田氏の選定理由として、今までの公共図書館とは異なる自由な活動が誘発するように考えられ、市民の考えも反映されることが期待されるものである。

4. WSによるプロポーザルの変化

太田駅北口駅前文化施設ワークショップ報告書[4)]にて、市民参加をプロポーザルの提案条件とされており、平成26年6月から平成27年11月までに7回の基本計画WS、3回の運営管理実施計画WSの計10回開催されている。(図2)

設計者が提示した複数案について市民が意見をのべ、その意見を元に設計者と行政が最終案の決定を行う。施設で求められる使われ方が市民の意見が軸となっているため、「子供が座って読める工夫(図2.A)」、「巡回する本棚(図2.B)」「普通の図書館にある本は不要(図2.B)」などフレキシブルな提案が行われ、当初の基本設計からより新たな図書館として計画されている。

5. 太田市美術館・図書館の管理運営基本方針

平成27年管理運営実施計画[8)]にて、既存の図書館とは異なる新たな文化創造の場として管理され、テーマ性の高い選書と配架計画、貸出カードの独自管理、市立図書館の管理を行っている学習文化課ではなく、美術館・図書館という独自の管理などが行われている。

6. まとめ

文化交流施設に図書館を整備決定の段階から図書館計画として始まるのではなく、地域の居場所として計画され、賑わいを創出する施設として考えられている。市民の総意を平田氏が施設としての自由度を持った空間として計画され、管理方針を策定してきたことがわかる。

今後は、プロポーザル選定から竣工するまでの変容を明確にするため、設計者へのインタビューを行い、より施設の全容を明らかにすることを課題とする。

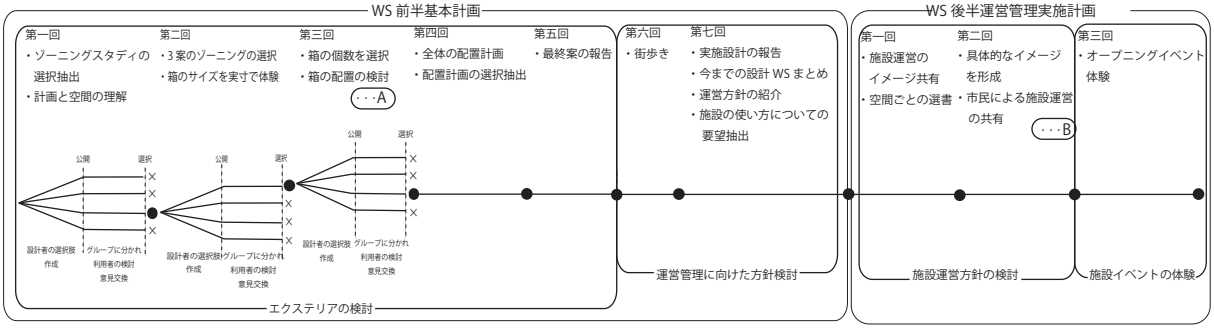

図 2.　WS の流れ

[参考文献・資料]

1)守屋陽平、山岸輝樹、図書館における本を読む姿勢の多様性調査、日本大学卒業論文概要集、2022年

2)太田市、第4次太田市総合建設計画、1985年、p61

3)太田市、第5次太田市総合建設計画、1995年、p41.p225-227

4)太田市、太田駅北口駅前文化施設ワークショップ報告書、2017年、p1-44

5)太田市、太田市美術館・図書館2023年版(第6版)、2023、p2-5

6)太田市、（仮称）太田駅北口駅前文化交流施設設計プロポーザル実施に係る手続開始の公告について、2014年、p1-9

7)太田市（仮称）太田駅北口前文化交流施設計プロポーザル総括、2014年、p1-2

8)太田市、(仮称)太田駅北口駅前文化交流施設 管理運営基本計画、2015年、p2-11